

## I 第51週の発生動向 (2015/12/14~12/20)

1. 咽頭結膜熱については、八戸保健所管内で第50週から**警報**が継続しています。
2. 伝染性紅斑については、むつ保健所管内で第50週から**警報**が継続しています。
3. 流行性耳下腺炎については、東地方+青森市保健所管内で**注意報**が発令されました。
4. 手足口病については、むつ保健所管内で**警報**が解除されました。
5. 感染性胃腸炎については、患者報告数が前週の246人から285人に増加しました。特に、東地方+青森市保健所管内及びむつ保健所管内で患者報告数が多い状況が続いています。
6. インフルエンザについては、患者報告数は8人で、迅速診断キットによる型別はいずれもA型でした。

## II 第51週五類感染症定点把握

青森県内の保健所管内、定点(医療機関)数、警報・注意報については青森県の感染症発生状況 TOP ページをご覧ください。

疾患名	東青 (東地方保健所・青森市保健所)		中南 (弘前保健所)		三八 (八戸保健所)		西北 (五所川原保健所)		上北 (上十三保健所)		下北 (むつ保健所)		青森県計		前週からの増減
	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	
小児科 内科															
インフルエンザ	5	0.38	1	0.07							2	0.33	8	0.12	4
小児科	RSウイルス感染症	10	1.25	35	3.89	8	0.80	14	2.80	4	0.67		71	1.69	-2
	咽頭結膜熱	2	0.25	2	0.22	36	3.60			2	0.33	2	44	1.05	0
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	17	2.13	13	1.44	46	4.60	3	0.60	5	0.83	2	86	2.05	-3
	感染性胃腸炎	139	17.38	44	4.89	11	1.10	21	4.20	11	1.83	59	285	6.79	39
	水痘	9	1.13	9	1.00	4	0.40	1	0.20	1	0.17		24	0.57	12
	手足口病	2	0.25	1	0.11	6	0.60	1	0.20	2	0.33	6	18	0.43	-1
	伝染性紅斑	4	0.50			3	0.30	6	1.20				9	2.25	0
	突発性発しん	1	0.13	7	0.78	10	1.00	1	0.20	4	0.67	1	24	0.57	5
	百日咳					1	0.10						1	0.02	1
	ヘルパンギーナ			1	0.11	2	0.20			1	0.17		4	0.10	3
流行性耳下腺炎	25	3.13	2	0.22								27	0.64	11	
眼科	急性出血性結膜炎														0
	流行性角結膜炎	1	0.50			3	1.50						4	0.36	1
基幹	クラミジア肺炎														0
	細菌性髄膜炎														0
	マイコプラズマ肺炎					3	3.00					5	8	1.33	-2
	無菌性髄膜炎	2	2.00										2	0.33	2
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)														0

は警報、は注意報。「空欄」:患者発生無し。

## III 全数把握疾患 (掲載数は最新情報)

- ・結核(二類全数把握疾患): 東地方+青森市2人、弘前3人、八戸2人、むつ1人 (2015年計:285人)
- ・レジオネラ症(四類全数把握疾患): 弘前1人 (2015年計:3人)

## IV 病原体検出情報 検出情報はありませんでした。

# 感染症の窓

## A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (五類定点把握疾患)

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、A群レンサ球菌による上気道感染症です。菌の侵入部位や組織によって多彩な臨床症状を引き起こします。学童期の小児に最も多く、冬季及び春から初夏にかけて報告数のピークが認められています。

本疾患は2日~5日の潜伏期の後、突然の発熱と全身倦怠感、咽頭炎によって発症し、しばしば嘔吐を伴います。軟口蓋の小点状出血あるいは莓舌(図1)がみられることがあります。また、菌が産生する発赤毒素に免疫のない人は猩紅熱といわれる全身症状を呈することがあります。

2015年の全国の定点当たり報告数の推移を見ると、第10、11週(3月前半)、第17週(4月下旬)及び第20~25週(5月中旬~6月中旬)にピークを示しました。その後報告数が減少しましたが、第39週(9月下旬)から増加し、第50週で3.34となりました。青森県でも全国と同様の傾向を示しましたが、定点当たり報告数は全国を下回っていました(図2)。今後の発生動向に注意が必要です。

予防としては、患者との濃厚接触を避けることが最も重要であり、うがい、手洗いなどの一般的な予防法も励行しましょう。

【参考】厚生労働省 HP、国立感染症研究所 HP



図1: 典型的な莓舌 (出典:国立感染研 HP)

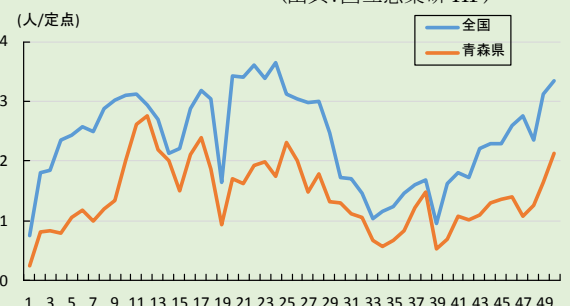


図2: 定点当たり報告数の推移(2015年第1週~第50週) (週)

V 保健所管内別全数把握疾患発生状況（2015年第41週～2015年第51週）

週	期間	東青 (東地方保健所・青森市保健所)	中南 (弘前保健所)	三八 (八戸保健所)	西北 (五所川原保健所)	上北 (上十三保健所)	下北 (むつ保健所)
41	H27.10.5 ~ H27.10.11			梅毒1人			アメーバ赤痢1人
42	H27.10.12 ~ H27.10.18	侵襲性肺炎球菌感染症1人		腸管出血性大腸菌感染症1人			
43	H27.10.19 ~ H27.10.25						
44	H27.10.26 ~ H27.11.1	アメーバ赤痢1人		クロイツフェルト・ヤコブ病1人			
45	H27.11.2 ~ H27.11.8	侵襲性肺炎球菌感染症1人					
46	H27.11.9 ~ H27.11.15	劇症型溶血性レンサ球菌感染症1人	侵襲性インフルエンザ菌感染症1人 侵襲性肺炎球菌感染症1人				
47	H27.11.16 ~ H27.11.22	バンコマイシン耐性腸球菌感染症1人					
48	H27.11.23 ~ H27.11.29			播種性クリプトコックス症1人			
49	H27.11.30 ~ H27.12.6	後天性免疫不全症候群1人 侵襲性肺炎球菌感染症1人 梅毒1人					
50	H27.12.7 ~ H27.12.13		侵襲性肺炎球菌感染症1人			カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1人	
51	H27.12.14 ~ H27.12.20		レジオネラ症1人				

VI 結核(二類全数把握疾患) (2015年第41週～2015年第51週)

単位：人

週	期間	東青 (東地方保健所・青森市保健所)	中南 (弘前保健所)	三八 (八戸保健所)	西北 (五所川原保健所)	上北 (上十三保健所)	下北 (むつ保健所)
41	H27.10.5 ~ H27.10.11	1	1	3		1	
42	H27.10.12 ~ H27.10.18				1	1	
43	H27.10.19 ~ H27.10.25	2					
44	H27.10.26 ~ H27.11.1	1	3	1	1		1
45	H27.11.2 ~ H27.11.8	5	2				
46	H27.11.9 ~ H27.11.15		1	1			1
47	H27.11.16 ~ H27.11.22	2	2	1			
48	H27.11.23 ~ H27.11.29			3		1	1
49	H27.11.30 ~ H27.12.6	1	1	1		1	
50	H27.12.7 ~ H27.12.13	2					
51	H27.12.14 ~ H27.12.20	2	3	2			1

VII 全数把握疾患発生状況(全国-青森県)

(注：発生状況は速報値であり、国内で届出のあった疾患のみを掲載しています)

全国

(2015年第1週～第49週累計)

分類	二類	三類	三類	三類	三類	三類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	
疾病名	結核	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エノコックス症	オウム病	回腸熱	コクシジオチチス症	重症熱性血小板減少症候群	チングニア熱	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	日本脳炎	ブルセラ症	ポツリス症	マリア	野兔病	ラム病
累積報告数	22255	6	149	3481	34	31	181	231	20	5	4	3	59	17	316	274	200	2	4	1	39	2	10
分類	四類	四類	四類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	類鼻疽	レジオネラ症	レプトスピラ症	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	急性脳炎	クプトス病	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘(入院例)	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	風しん	麻しん	薬剤耐性アシネータ菌感染症
累積報告数	1	1500	30	1012	236	1546	462	14	170	399	1306	73	221	27	2095	278	2412	110	110	57	155	34	32

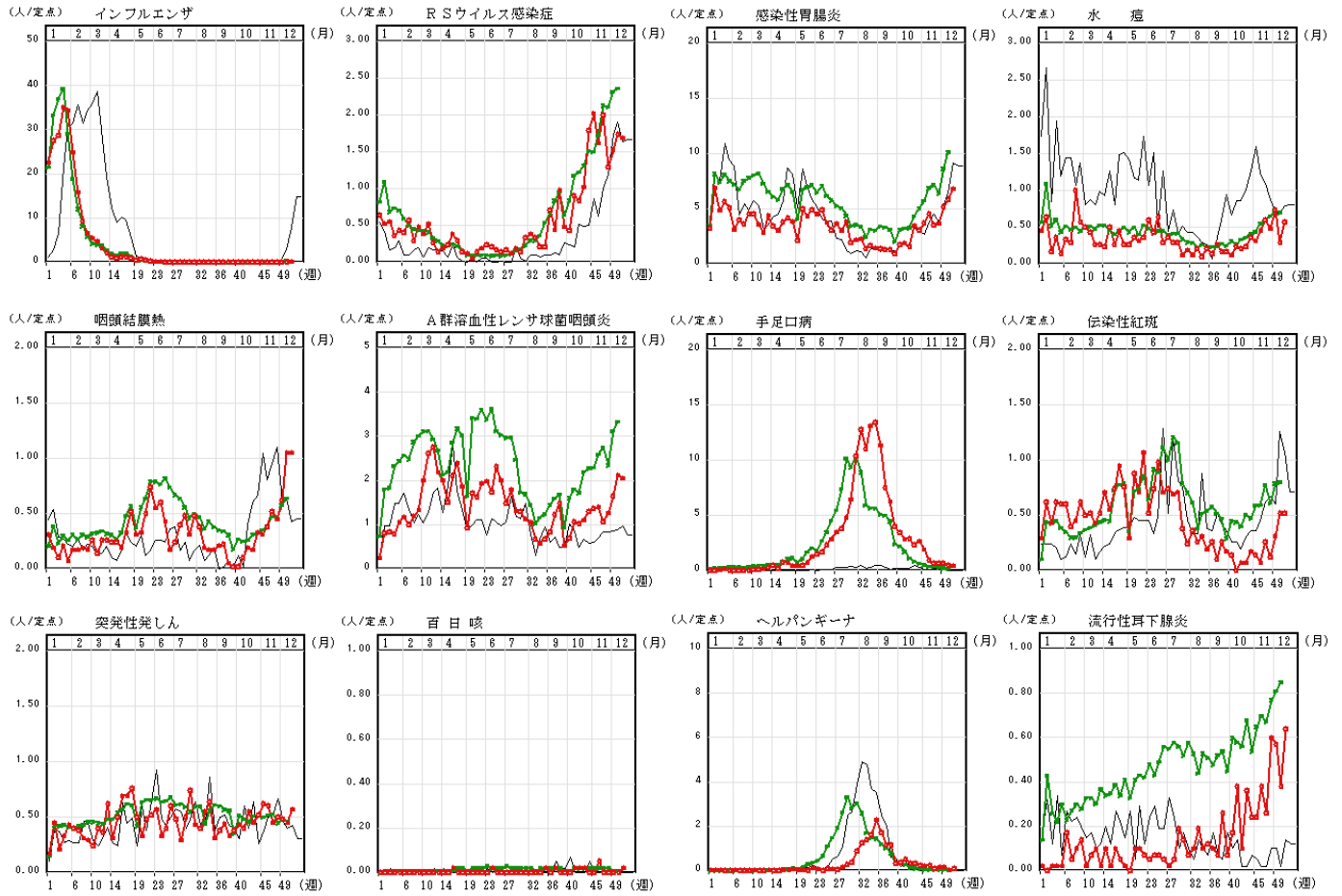
青森県

(2015年第1週～第51週累計)

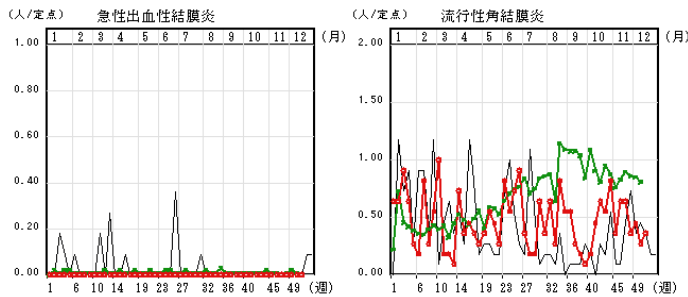
分類	二類	三類	三類	四類	四類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	結核	腸管出血性大腸菌感染症	細菌性赤痢	つつが虫病	レジオネラ症	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	急性脳炎	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘(入院例)	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			
累積報告数	285	47	1	8	3	11	1	17	2	2	3	3	3	19	2	7	1	1	1			

Ⅷ インフルエンザ・小児科定点把握疾患週別推移 (2015年第51週、但し全国は前週)

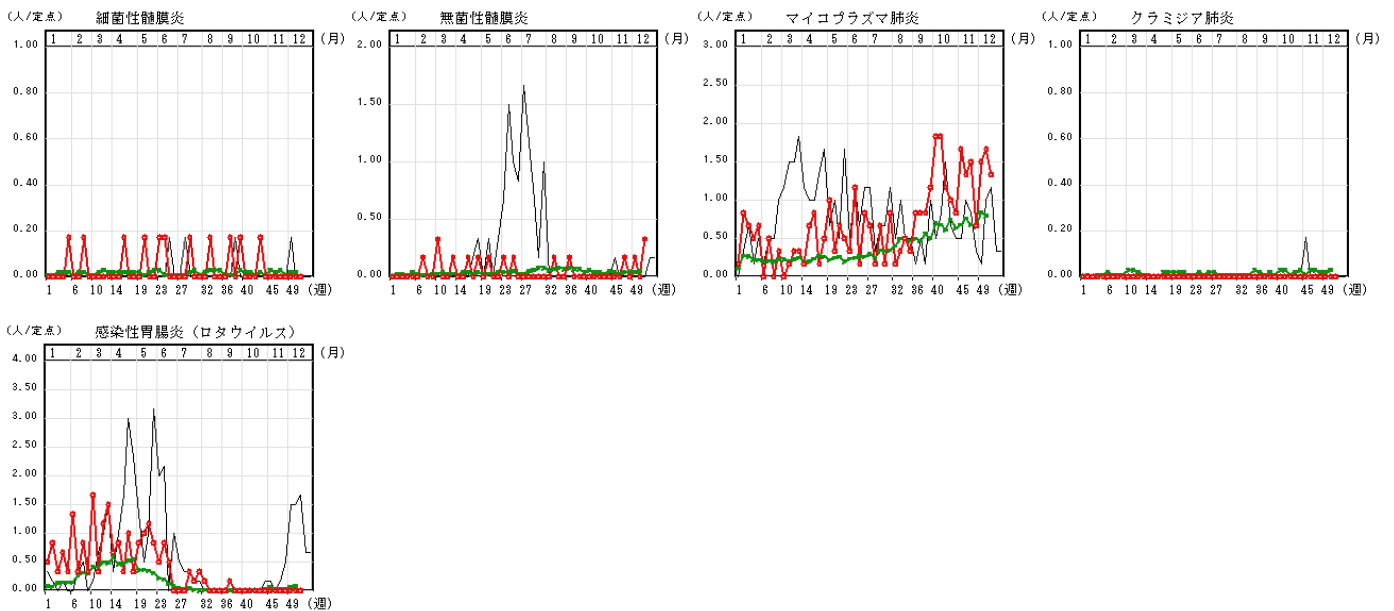
グラフの説明 ○—○は2015年青森県、——は2014年青森県、×—×は2015年全国



Ⅸ 眼科定点把握疾患週別推移 (2015年第51週、但し全国は前週)



Ⅹ 基幹定点把握疾患週別推移 (2015年第51週、但し全国は前週)



## XI 社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑い含む）の発生状況

「社会福祉施設等における感染症等発生時に係る報告について」（平成17年2月22日付け厚生労働省健康局長、医薬食品局長、雇用均等・児童家庭局長、社会・援護局長通知）に基づく、青森県内の社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑いを含む）の報告件数及び発症者数は次のとおりです。

第51週は報告がありませんでした。

### 平成27年報告件数及び発症者数

施設種別	月(週)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	12月			計 (施設別)	
		1-4週	5-8週	9-13週	14-17週	18-22週	23-26週	27-30週	31-35週	36-39週	40-43週	44-48週	49週	50週		51週
介護・老人福祉関係施設	件数	7	5	1	0	2	0	0	0	0	0	1	0	1	0	17
	発症者数	107	94	47	0	27	0	0	0	0	0	10	0	27	0	312
児童・婦人関係施設等	件数	3	0	1	1	0	1	1	0	0	2	1	1	1	0	12
	発症者数	61	0	5	19	0	14	28	0	0	30	29	23	25	0	234
障害関係施設	件数	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	発症者数	0	0	10	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	26
その他施設	件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	発症者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計(月別)	件数	10	5	3	1	2	2	1	0	0	2	2	1	2	0	31
	発症者数	168	94	62	19	27	30	28	0	0	30	39	23	52	0	572